

地域共生

シンポジウム

第6回 地域共生社会推進長野フォーラム



令和4年 11月12日(土)  
2022年 10:30~11:50



## 地域共生シンポジウム

### 「人口減少社会に持続可能な地域づくりを考える」

人口減少社会、過疎化の進展の中、移住・定住の促進や交流人口の獲得に向けた取組が県内各地で展開されています。人と人がつながり、お互いに支え合い、誰もが居場所と出番がある持続可能な地域づくりについて考えます。

#### 【シンポジスト】



**玉木 信博 氏**

一般社団法人 ソーシャルファームなかがわ 事務局長

中川村に移住し、労働者協同組合における農・地域づくり・福祉の連携を模索し、地域の仲間とともに当法人を設立。



**北澤 淳 氏**

合同会社 風の谷の大鹿 社員／長野県職員

大鹿村出身。県職員として働きながら、副業制度を活用して地元の仲間と合同会社を設立。愛する地元でカフェ「HAKKO OOSHIKA」をオープン。



#### 【コメンテーター】



**藤山 浩 氏**

一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所 所長

島根県中山間地域研究センター等を経て2017年より現職。総務省地域力創造アドバイザー他、国・県委員多数。専門は、中山間地域政策、未来社会論、地域計画、地域分析（人口・経済）、地域づくり支援。著書に「日本はどこで間違えたのか」など

#### 【ゲスト】

長野県知事

阿部 守一 氏



#### 【司会】

上条 百里奈 氏

介護福祉士・白梅学園大学嘱託研究員・モデル（長野県出身）



---

## 【シンポジスト】

玉木 信博 氏 一般社団法人 ソーシャルファームなかがわ 事務局長

---



# イチから協同の小さな仕事づくり、 ソーシャルファームなかがわの活動から

2022年11月12日 信州ふっころフェスティバル



一般社団法人 ソーシャルファームなかがわ 事務局長  
日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会 理事  
日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会センター事業団 専務理事  
玉木信博

## 自己紹介

- 東京都東村山市出身。大学在学中からの環境保護に関わる市民活動やNGO等の活動後、2006年4月～日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会センター事業団入団、高齢者施設、コミュニティセンターや児童館、学童保育所、若者支援、生活保護受給者や生活困窮者支援等のプロジェクト等に関わる。2019年～日本労働者協同組合連合会理事、2022年6月～センター事業団専務理事。
- 2015年4月～長野県上伊那郡中川村へ移住。長野、東京、地方（出張）の行ったり来たりの暮らしが始まる。現在、労働者協同組合（協同労働）による農・地域づくり・福祉の連携を模索し、一般社団法人ソーシャルファームなかがわを地域の仲間と共に設立（2019年9月）同法人事務局長兼専務理事。
- その他に、「社会を楽しくする障害者メディア『コトノネ』」読者編集委員、伊那薬草研究会事務局長、なかがわ聞き書きの会事務局、2021年度-中川村総合戦略推進委員等

ー本日、お話ししたいことー

- ・ 協同労働という働き方と労働者協同組合法について
- ・ 協同労働を生かした活動づくりーソーシャルファームなかがわの取り組み

## 労働者協同組合法の制定

2020年6月12日、与野党・全会派の合意・賛同を得て、超党派の議員立法として労働者協同組合法案を衆議院に提出。提出者15人、賛同者53人が名を連ねる。

10月26日に開会した臨時国会で、11月20日衆議院厚労委員会で質疑・全会一致で採択。

24日の衆議院本会議で可決後、12月3日参議院厚労員会で質疑・採択、12月4日に可決・成立した。12月11日に交付され、2022年10月施行。



労働者協同組合法は参議院本会議で全会一致で可決された

## 協同労働と労働者協同組合

### 協同労働という働き方

働く人や市民が資金をみんなで出し合い、仕事をつくり、運営にも参加して一人ひとりが主体となる働き方。よって、話し合いを大切にし、違いを認め合い、お互いの力を生かし合う。利用者や住民との協同を大切に、人と地域に必要な仕事をおこし、よい仕事を目指す。

(日本労協連ホームページ要約)

**労働者協同組合とは**、労働者協同組合法に基づいて設立された法人で、組合員が出資し、それぞれの意見を反映して組合の事業が行われ、組合員自らが事業に従事することを基本原理とする組織。(厚生労働省ホームページより抜粋)



## 「労働者協同組合法」第1条（目的）

### ◎法の目的（第1条）

「この法律は、各人が生活との調和を保ちつつその意欲及び能力に応じて就労する機会が必ずしも十分に確保されていない現状等を踏まえ、

組合員が出資し、それぞれの意見を反映して組合の事業が行われ、及び組合員自らが事業に従事することを基本原則とする組織に関し、設立、管理その他必要な事項を定めること等により、

多様な就労の機会を創出することを促進するとともに、当該組織を通じて地域における多様な需要に応じた事業が行われることを促進し、もって持続可能で活力ある地域社会の実現に資することを目的とする」

①ワークライフバランスとディーセントワーク（働きがいある人間らしい仕事）

②出資・意見反映・事業従事の3原則が組織の基本原則

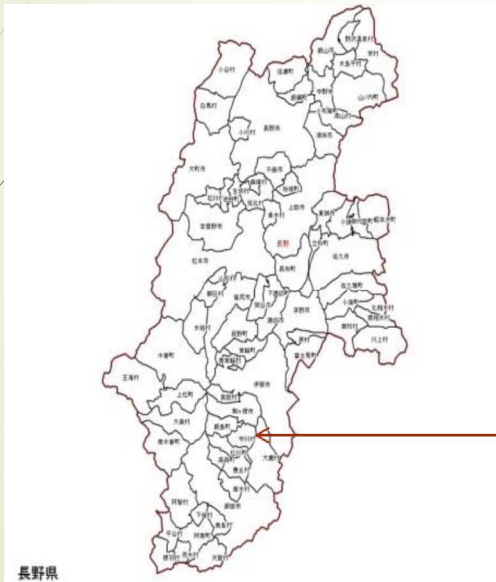
③目的は、多様な就労創出と地域に必要な仕事づくり、持続可能な地域づくり

## 労働者協同組合法制定前後から 増えている各地の相談や取り組み

- ・地域住民における立上げ：仕事づくりとまちづくり（特に農山村地域多い）
- ・自治組織・地縁組織からの関心：生活支援等の事業化
- ・既存法人からの関心：株式会社やNPO等の既存法人から協同労働への関心
- ・多様な分野：製造業やIT関連事業における労働者協同組合
- ・コロナ禍：コロナ禍における失業者や生活困窮者の相談、就労創出への期待
- ・事業承継：今後の発展、事業者の高齢化、あるいは倒産や自主廃業等を見据えた事業承継
- ・当事者によるワークス：障害当事者や家族等のネットワーク。
- ・関連する法制度整備に向けて：社会的協同組合法、コミュニティ協同組合法
- ・自治体における労働者協同組合法の学習会や相談と協同労働支援
- ・地域共生社会に向けた協同労働への期待（重層的支援体制整備事業等）
- ・副業：副業的な労働者協同組合の設立への関心



## 農山村でのイチから協同の小さな仕事づくりへ ソーシャルファームなかがわの活動から



長野県 中川村  
人口4718名 (2022.10.1)  
世帯数：1689世帯

### 東京から移住して、感じたこと①

地域で高齢の方々の関係性を見ていると「支え、支え合う」というより、「頼る、頼り合う」という印象。頼られる方は、むしろ頼る側によって、その力を認められ、求められ、そして応えている。

(まるで当事者研究の「弱さの情報公開」のよう・・・)

そうやって、他者から頼られた自分を地域や他者の関係を通して感じ、コミュニティでの自らの役割や出番が生まれてくる。

しかし東京で育った私には、この「頼る」という事がなかなか上手くない。村の人に比べたら、あれもこれも何もできないのだから、頼りたいことは山ほどあるのに・・・。

「頼る」ことも「頼られる」こともお互いが深く知りあっていなければならぬ。私はこの地で生まれ育っていないのだから、自分自身の内面を意識的に開いていく必要があるのだろう。

(2017年頃の自分のメモ書き)

## 東京から移住して、感じてきたこと②

都市では、多くの支援機関や多様な居場所を選択することもできるが、農山村では様々な理由でいったん村の共同体的関係から疎遠になった方の中には、行き場がなく、生きづらい、という印象も受ける方がいる。

しかし、村（集落）という小さな社会の中であるからこそ、こうした他者の困難が目の前に現れ、誰もが考えるきっかけを与えてくれる。農山村では、その土地に共に暮らす人々が固有名詞の世界で、互いにこうした「生」のテーマに直面している。

都市では、地域の関係性が流動的で、たとえ近くで困った人がいたとしても、その他者を知ることすらなく、過ぎ去っていくということかと思える。

## 東京から移住して、感じてきたこと③

モノを持っていなかったときと、モノを持つてからのこと。

農村で自給的な農をするにも、たくさんの機械や道具が必要だった。コメや野菜をつくるにもトラクターや管理機等が必要だし、薪をつくるにもチェーンソーや薪割り機も必要。我が家も、頂いたり、中古のものを買ったり、徐々に揃っていった。

何も持っていなかった移住当初は、見かねた隣近所の方々がなんでも総出で手伝ってくださった。手伝っていただいたお礼に、私自身も何かできることを探してきた（そんなになかったが、買い物や同行や食事会など）。

しかし、個人で所有する機械や道具もそろっていくと、そうした関係性が薄まってきたように感じる。

まずは、地域で求められていることと、自分にできること、自分たちのしたいこととの重なりを模索していた  
(ステップ①)

6年前、地域の様々な集まりなどに参加しながら、近所の方、村役場の職員、議員の方、障害当事者と話をするうちに、村には障害者の暮らしや仕事を支える場が少ないということを知る。


多くの障害のある方が村外に仕事に行ったり、他市町村のグループホームなどに転居したりしている。

それも一つの選択かもしれないが、生まれ育った地域で暮らし続ける選択ができるというのもまた、当然の権利としてなくてはならない。

2016～2019年 中川村ともいき映画会開催→ソーシャルファーム学習会等



続けてきた話し合い、学び合い、出会い（とにかく仲間づくり）



**地域の必要や地域の課題において、  
「こうあったらいいな」を小さな形にしていく作業  
(ステップ②)**

農山村にも、障害者のみならず、自宅に引きこもっている若者や高齢者、様々な困難を抱えるたちもいる。こうしたことは、何も都市のテーマではなく、おそらく全国のあらゆる地域が同様の課題を抱えている。

農山漁村における少子高齢化や地域づくりの打開策としての移住支援も大切だが、ここに生まれ、ここに育った人が生きやすく、活躍できる場も求められているのではないか。



**30年前に中川村に移住した半澤さんとの出会い。**

半澤さん夫妻は30年間、制度を利用せず、地域で障害者との共同生活をしてきた。(対岳寮の取り組み)

この暮らし、営みがどうしたら続けられるか



**「ソーシャルファームなかがわ」準備会を法人組織に**



## 設立経過

2016年～2019年ともいき映画会開催、ソーシャルファーム学習会等  
2019年8月 一般社団法人ソーシャルファームなかがわ設立



### (一般社団法人ソーシャルファームなかがわ理念、定款第3条)

障害や生きづらさがあっても、誰もが安心して生き、自分らしく暮らし、働くことができる地域を協同してつくることを目的とする。基本的人権と生命を最高の価値とし、自然との協奏を目指す。(定款第3条目的)

地域に必要な仕事や暮らしを地域住民自身が創り出す「地域協同組合」及び「労働者協同組合」を目指したい。

ここに集ったメンバーが大切にしてきたことは、まさに「自主的な参加、話し合いを基本とする民主的で開かれた場からの仕事づくり、働き方」(協同労働)である。(設立時文書)

立上げ時メンバー：11名(役員)

立上げ時の基金(出資) 一口3万円、計約400万円



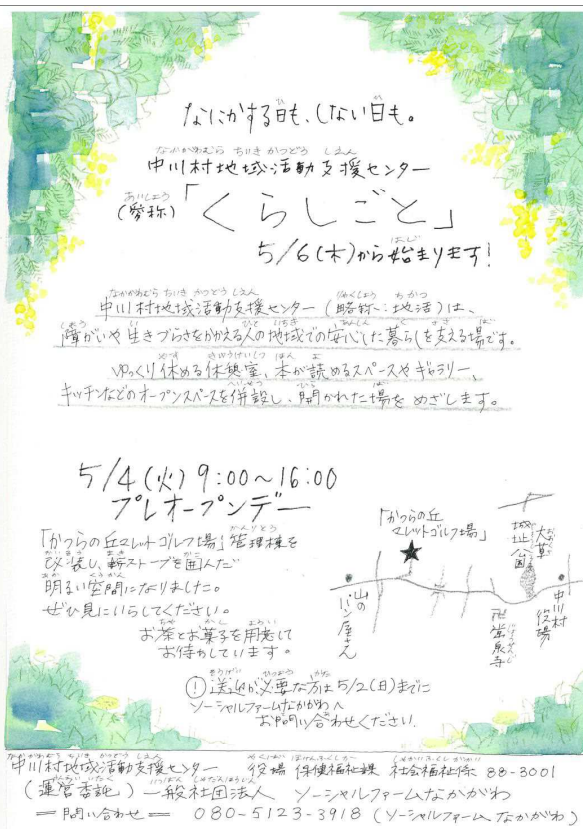


## 村立の地域活動支援センターの設置に向けて (2019年~2020年)

- ・実施主体が市町村事業であることで、障害者総合支援法の他事業の中でもより地域性が高いということ。
- ・障害者のみならず、ひきこもりの方や様々な困難を抱える方を受け入れられる拠点であること。
- ・就労が主たる目的ではなく、居場所的で多様な機能を有すること（Ⅱ型を選択することで、入浴も可能）。広義に地域活動の拠点になりうること。

## 設立に向けた準備の中で (2020年10月~)

- ・村の保健福祉課、地域包括支援センターとの意見交換  
(包括的相談支援の在り方、重層的支援体制整備事業についての学び)
  - ・地域活動支援センターの利用者になると考えられる方への訪問活動（アウトリーチ）2021年2月~2021年4月
  - ・・・5月~福祉医療機構（WAM）の助成で「アウトリーチと社会資源開拓」の助成事業が開始
- ⇒2022年度重層的支援体制整備事業（アウトリーチ）の受託へ



2021年5月オープン  
中川村地域活動支援センター  
“くらしごと”運営委託

## 2021年5月オープン 中川村地域活動支援センター (村立) “くらしごと”運営委託開始、それから1年

- ・ 訪問に行った方々が来てくれた!
- ・ 開所から1年で利用登録者は19名
- ・ 居場所から仕事へ  
(公園整備管理、薪づくり)
- ・ まったなしの  
オリジナルの仕事づくりの必要性







## ソーシャルファームなかがわの事業と活動

- 2019年8月 長野県法務局 一般社団法人設立・登記
- 2019年12月 中川村小規模ケア施設整備事業補助
- ☆ 2020年4月 中川村葛島広場の管理に関する委託業務開始
- ☆ 2021年4月 ソーシャルホーム『対岳寮』運営（共生住宅、自主事業）
- ☆ 2021年5月 中川村地域活動支援センターくらしごと開所（委託事業）
- 2021年5月 包括的相談支援を基礎としたアウトリーチ及び社会的資源の開拓  
（2021WAM助成金決定）⇨重層事業へ移行
- 2021年10月-3月 コロナ禍生活困窮等相談・支援事業委託事業
- 2021年11月 日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会への準加盟
- 2021年12月 （一社）農福連携自然栽培パーティ協議会加入
- ☆ 2022年4月 重層的支援体制整備事業（移行準備）アウトリーチ事業受託



## 中川村における「ソーシャルファーム的」仕事づくり（目標）

- 1、近隣の果樹農家の援農。高齢になっても少しでも長く元気に農業が営めるようにサポートしつつ、我々メンバーの技術の習得を目指す。
- 2、増え続ける休耕田をどうするのか。米を作りながら考える。
- 3、メンバーの美しい里山の恵みを仕事と活動の拠点に。（竹林、水田、養蜂）
- 4、伊那谷を薬草・薬木の産地に。中川村は養命酒発祥の地。伊那薬草研究会と連携して、農福連携で薬草を。
- 5、空き家の管理。増える空き家。荷物の整理、気持ちの整理、住むか売るか借すか、と家主が決心するまでの数年、家の周囲の草刈りと家屋に風を通す取り組みを仕事にしたい。

⇒こうしたテーマを担う

自主事業（一般就労）と生活介護・就労継続支援事業所B型を  
開設したい

## ほんの少しずつ はじまる農福連携・薬草！







くらしごとのメンバー、スタッフ皆で**クロモジ**の採取



地域のお店などで販売しています。

## ずっと胸の中にある言葉・・・

『私たちの先祖は、「暮らしはつくるもの」「仕事はつくるもの」で生きてきました。ところがとりわけ戦後以降、「仕事は雇われるもの」「暮らしは買うもの」に変わってきました。そのツケが、さまざまな形で私たちを圧迫していて問題も大きくなっています。

もういちど、「仕事をつくる」とはなにか、を考えていかななくてはいけないと思います。一人でできることもあるでしょうし、仲間と一っしょにすることも、自然があってできる仕事もあるし、地域があってこそ仕事もあります。』

(内山節『私たちは、この日本の風土は、何を育んできたのかを絶えずふり返りながらすすみたい』「NPO法人森づくりフォーラム」ホームページより)

## 協同ではたらくガイドブック—実践編—

一般社団法人協同総合研究所発行



これまでワークスコープが培ってきたノウハウを一冊にまとめました。わたしたちが暮らす地域で、わたしたちに必要な仕事を、わたしたち自身がおこなう。協同労働やワークスコープへの注目が集まる中、実際に立ち上げるために必要な手続きや法制度の中身について解説しています。ご関心のある方はお気軽にご注文ください。

第1章 新しい働き方をつくろう  
第2章 実践的に考えてみよう  
第3章 労働者協同組合を設立しよう  
第4章 協同労働を実践する労働者協同組合の紹介(資料)  
・各種法人格の違い  
・定款の基本  
・協同労働の協同組合の原則

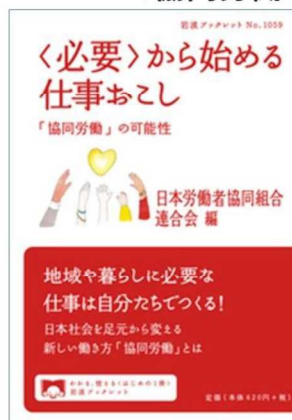
2021年12月1日発行  
発行・制作 一般社団法人 協同総合研究所  
定価: 1,100円(税込)  
B5判・全80頁

<https://jicr.roukyou.gr.jp/202110271823/>

1

## <必要>から始める仕事おこし 「協同労働の」可能性

岩波ブックレット



暮らしや地域に必要な仕事は自分たちで立ち上げよう! 働く者たちが自ら出資して仕事をおこし、経営にも携わる。労働者協同組合法が成立し、いま「協同労働」という新しい働き方が広がろうとしている。行き詰る日本の雇用や労働の問題を浮き彫りにしながら、「協同労働」の意義や具体的な実践を検証し、その可能性を探る。

2022年2月4日発行  
著者 日本労働者協同組合連合会 編  
定価: 682円(税込)  
A5・並製・88頁

<https://www.iwanami.co.jp/book/b599105.html>

12

---

【シンポジスト】

北澤 淳 氏 一般社団法人 合同会社 風の谷の大鹿 社員／長野県職員

---



信州ふっころフェスティバル  
地域共生シンポジウム

## 「人口減少社会に持続可能な地域を考える」

2022/11/12

村人／農家手伝い／公務員／SHIP共同代表  
合同会社風の谷の大鹿 社員／カフェレストラン店員

北澤 淳（きたざわ あつし）

1

### 自己紹介

## 北澤 淳（きたざわ あつし）



- ・ 1985年  
南信州・大鹿村生まれ
- ・ 茨城県水戸市で大学4年間
- ・ 2008年  
長野県庁に入庁
- ・ 2022年  
複業で地元にて  
カフェオープン

2



私は何者？

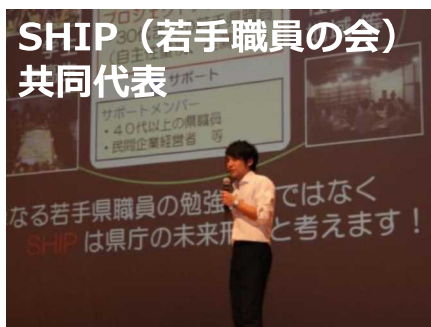
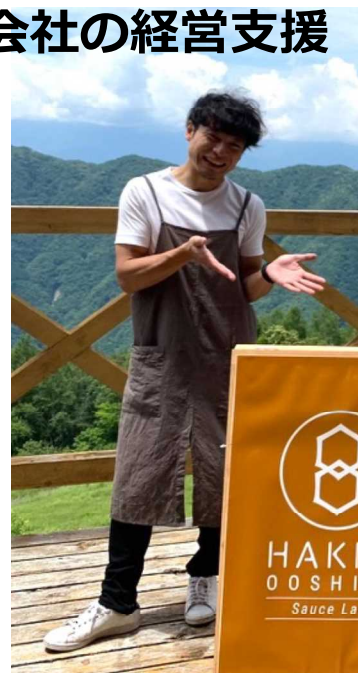
公務員（県庁）



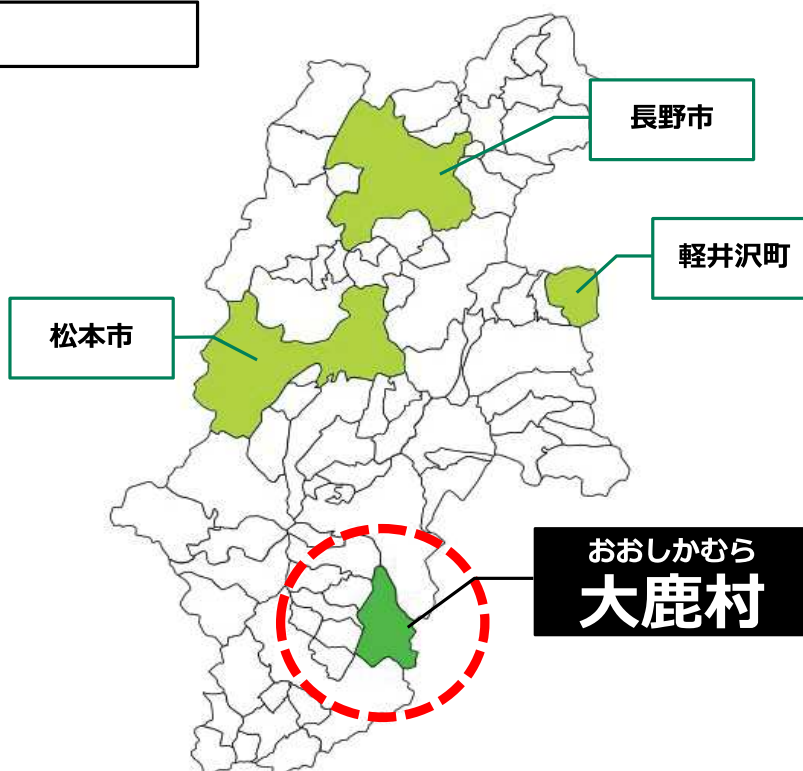
農家手伝い



カフェ手伝い  
会社の経営支援



生まれたところ





生まれたところはこんなトコ



生まれたところはこんなトコ 祝 国重要無形民俗文化財指定  
大鹿歌舞伎



生まれたところ

おおしかむら  
大鹿村

1人

1,000人

※35年前は2,000人

起業について

Q. 北澤は何をしているのか？

A. 地元の仲間と合同会社を立ち上げ、  
地元の標高1500mの地で  
カフェレストランを運営しています。

Q. 公務員なのに？

A. 許可取って、できてます。



# 地域に飛び出せ！社会貢献職員貢献制度

許可を受けることにより報酬を得て社会に貢献する活動に従事できます！

職員が自らの知識や経験を活かし、地域の様々な活動に参加  
⇒ **地域社会にプラス**

職員が活動から得た知見やネットワークを県政に活かす

**現在約30名が登録活動中！**

- ・部活動の外部コーチ
- ・スキーインストラクター
- ・ラップを通じた県の魅力発信
- ・バルーンアートの披露 など

## ○制度概要（営利企業等従事許可基準）

<b>対象活動</b>	○地域的、社会的貢献活動（報酬を得る場合） ○活動従事により、地域や社会への貢献や職員の能力（共感力、政策力、発信力）向上、行政サービスの品質向上等が期待されるもの
<b>許可要件</b>	○本来の職務遂行に支障がないこと（勤務時間外、休日等における活動） ○活動団体等との間に特別な利害関係（契約、補助、指導・処分等）が生じるおそれがないこと ○営利を主目的とした活動、宗教的活動、政治的活動、法令に反する活動でないこと ○受領可能な報酬額は、社会貢献活動として許容できる範囲内であること
<b>対象職員</b>	○知事部局、教育委員会（県立学校を含む）、企業局等の職員 ○勤務成績が良好である職員（業績評価「C以上」）

## 起業について

生まれ育った故郷・大鹿村に新たな風を興すため

『合同会社風の谷の大鹿』を設立しました。

人口1000人以下、深刻な高齢化が進むこの村独自の文化と暮らしを未来へつなぐため、村の内と外から活動していきます。



- PROFILE -



きたざわ あつし  
**北澤 淳**

大鹿村出身。公務員として長野県庁に勤務。生まれ故郷を盛り上げるべく、標高 1500m にある村内施設の出店者募集に手を挙げる。プロボノ的な立場で自身の持つ経験と繋がりを活かして、お店を起点に村に新たな風を起こしたい。



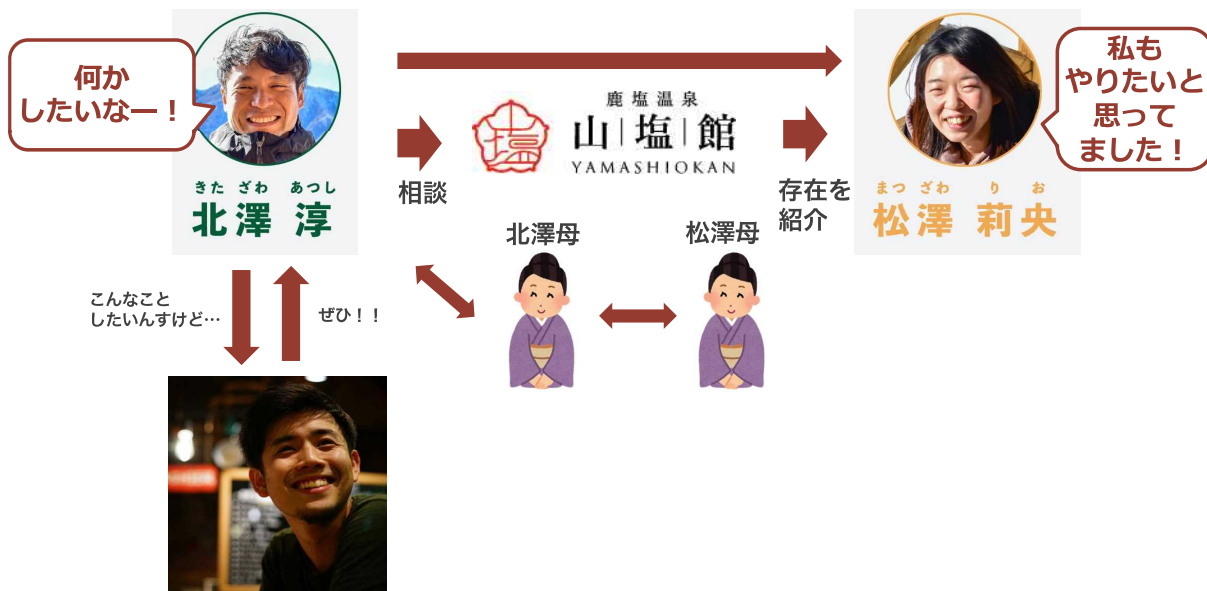
まつざわ りお  
**松澤 莉央**

大鹿村出身。村外の飲食店で経験を積んだのち、地元でお店を開く夢を叶えるために本プロジェクトに参加。「合同会社風の谷の大鹿」の代表とカフェレスト「HAKKO OOSHIIKA」の店長を務める。実家は村特産のブルーベリー農園。

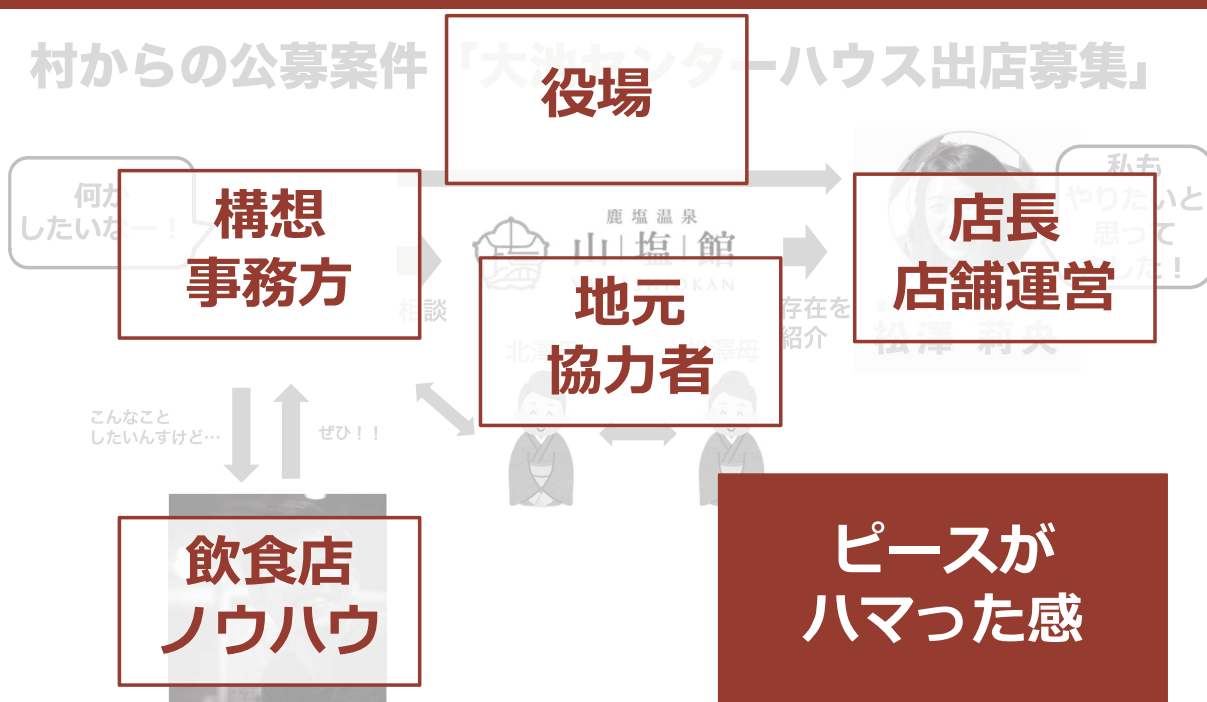




村からの公募案件「大池センターハウス出店募集」



村からの公募案件「大池センターハウス出店募集」



# 2022年5月22日 クラウドファンディング 実質達成！！

Source × Sauce 人口千人の秘境・南信州大鹿村に新たな風を興したい！

kaze\_ooshika まちづくり・地域活性化 長野県



¥ 現在の支援総額

2,692,166円

89%

目標金額は3,000,000円

支援者数

281人

募集中まで残り

終了

## 5/28 レセプション開催





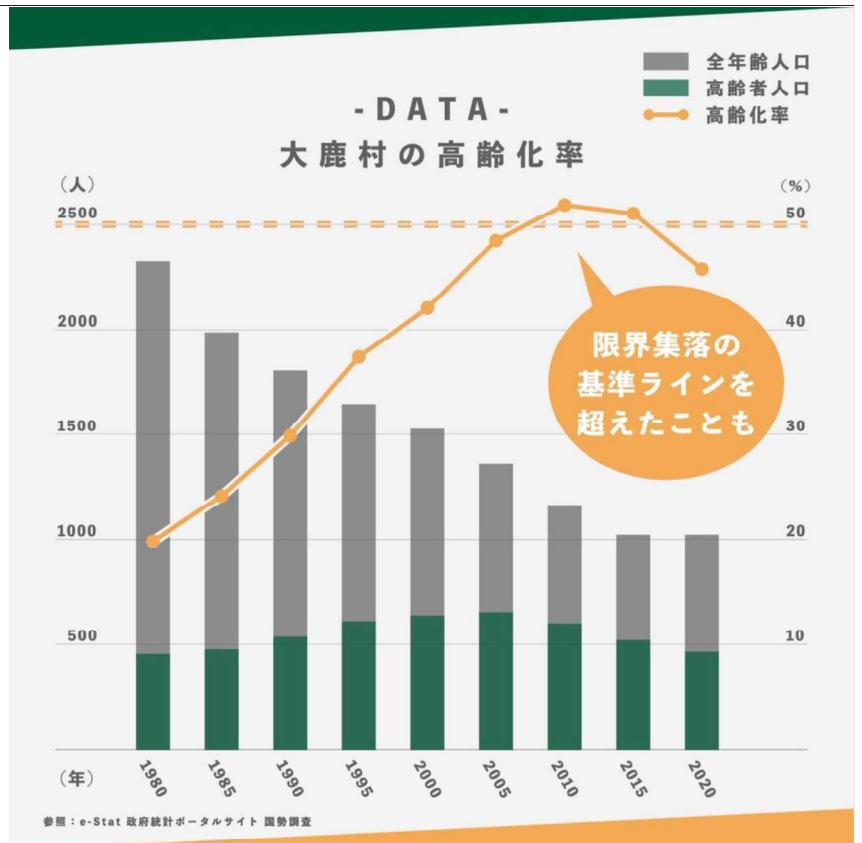
自分のバックボーン

強烈な危機感

1985年 約2000人  
2020年 約1000人

30年前との違い  
肌で感じている

何もしないで  
沈んでいく地元  
それでいいのか？





自分のバックボーン

恩返し

約30年前  
村民運動会



自分のバックボーン

恩返し

3年前  
新年会



## これから…地域経済の担い手に

### - ACTION -

マーケットの小さい村では「飲食事業」だけでは持続的な運営が難しいと想定されます。  
また、飲食だけでは村の未来に向けた本当の意味での貢献に至らないと考えます。  
飲食を起点に関係を連鎖させ、相乗効果・波及効果を生み出すことを目指します。



21

### 人口減少の中で、持続可能な地域とは

条件的には不利な地域かもしれない  
でも、かけがえのない“地元”を諦められない

(個人的には)「帰りたい地元をつくる」  
でも、完全なるプレイヤー不足  
→それなら、まずは自分でやってみよう！

ひとりでは何もできなかったかもしれない  
→仲間、クラファンでの応援、地元の期待  
行動が、ご縁と、予想を超えた何かを運ぶ

「できるできないじゃなく、やるかやらないか」

22

なにかあればご連絡を。  
一緒に何かしたいです。

 北澤淳  
Atsushi.Kitazawa.Oshika

 Atsushi\_ktzw



---

【コメンテーター】

藤山 浩 氏 一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所 所長

---



一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所  
 所長 藤山 浩

1. 「地元関係図」～お達者さを支える地域の「生態系」
2. 「小さな拠点」～分野を横断した「合わせ技」
3. 「地域経営会社」～新たな暮らしと定住を支える仕組み

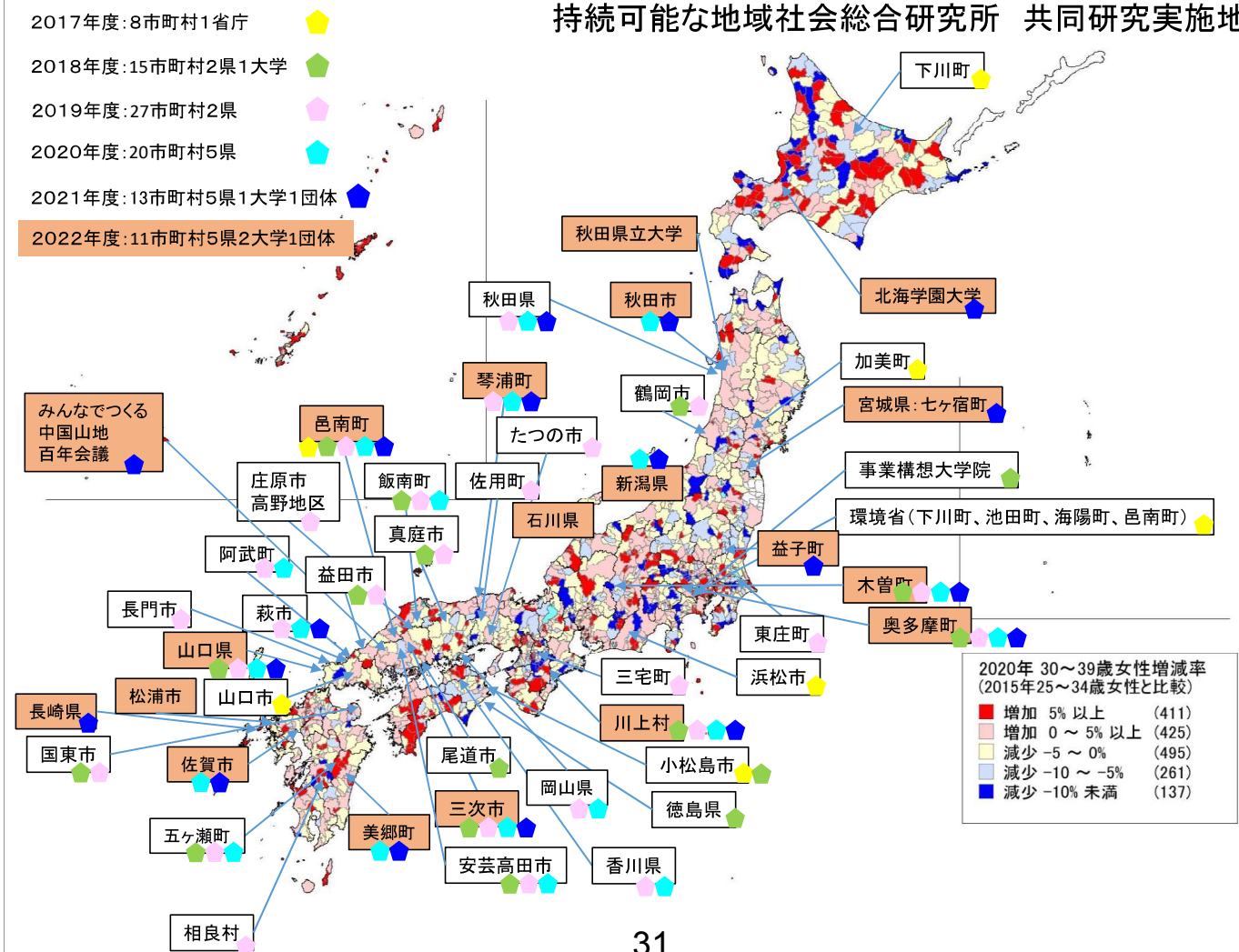


自宅は日本一の清流を望む断崖に立つ



研究所オフィス「さざ波テラス」は日本海のそば

持続可能な地域社会総合研究所 共同研究実施地域

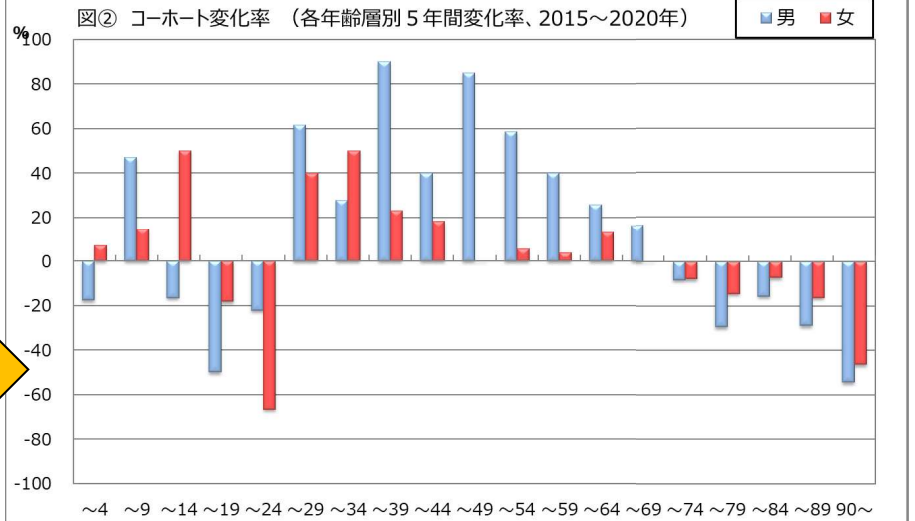
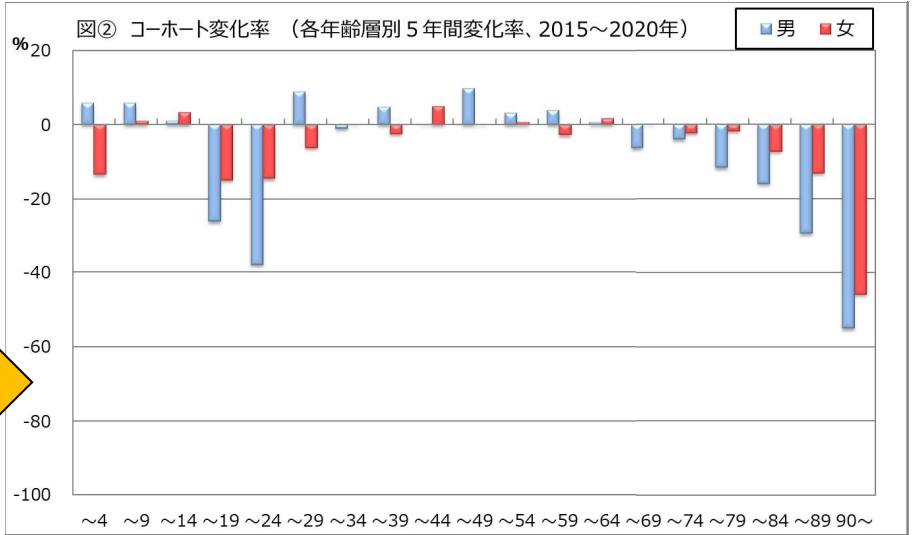


長野県中川村  
人口4,651人  
高齢化率36.1%

5～14歳の子ども、  
40～50代が流入  
超過

長野県大鹿村  
人口1,023人  
高齢化率45.5%

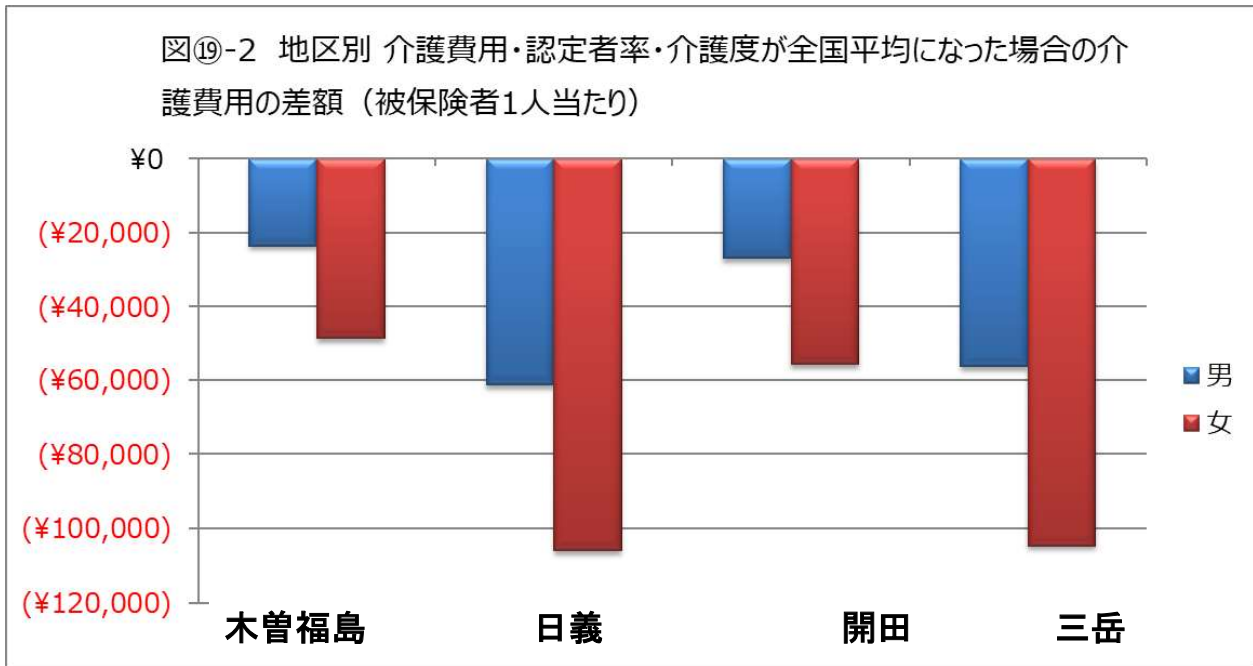
15～24歳世代を  
除き、60代まで  
広範な世代で流  
入超過＝社会増



# 1. 「地元関係図」～お達者さを支える地域の生態系

## 長野県木曾町における地区別の介護費用比較

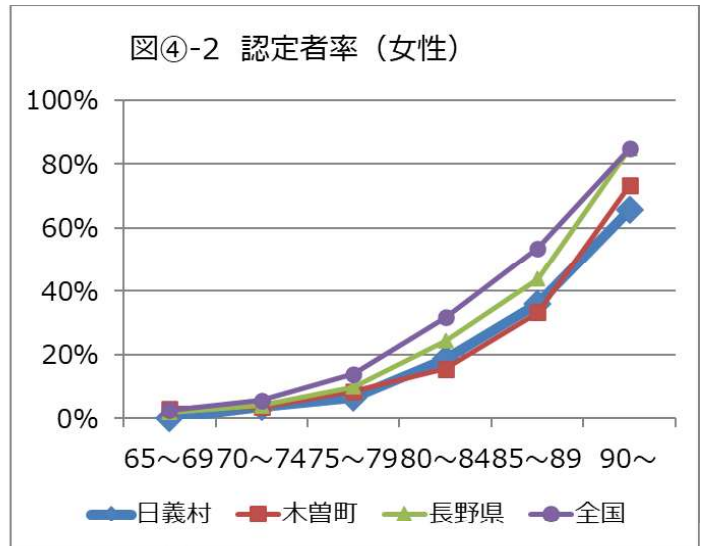
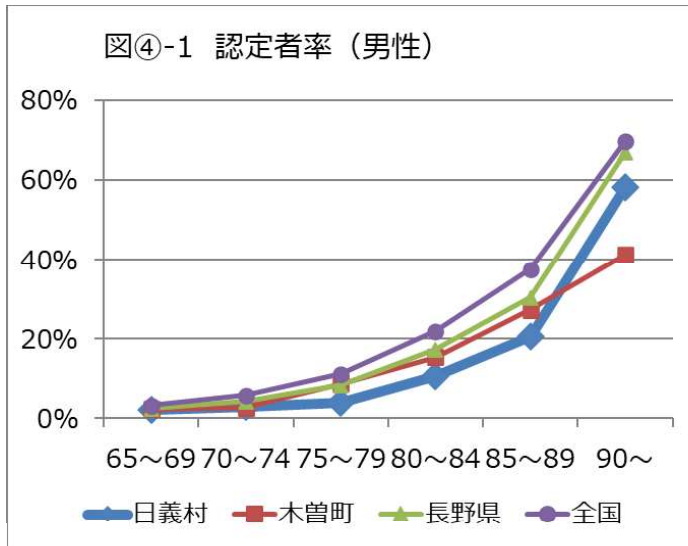
<1人当たり・全国平均単価で比較>



総合的なお達者度を示す1人当たりの差額で比較すると  
全地区とも全国平均よりも介護費用を浮かせている！  
日義は、男女とも、木曾町の<sup>32</sup>中でトップ！

# 認定者率の比較

男性の認定率の低さが注目～特に70代後半・80代  
女性は、90代の低さが目立つ



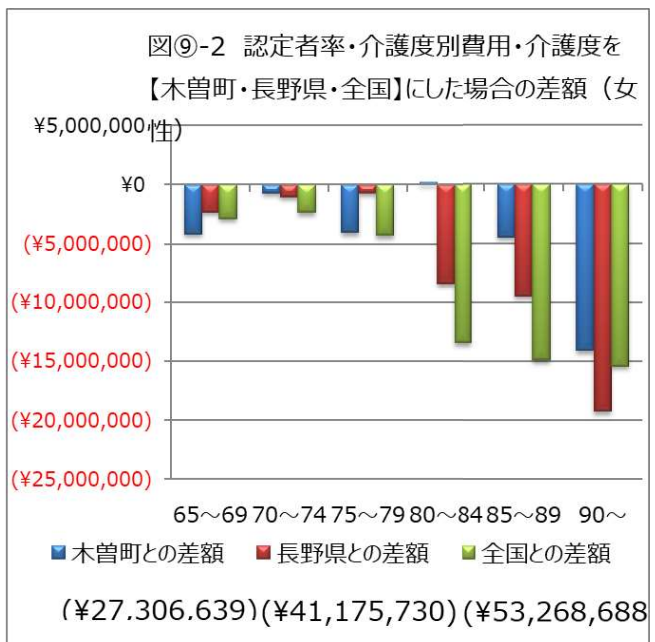
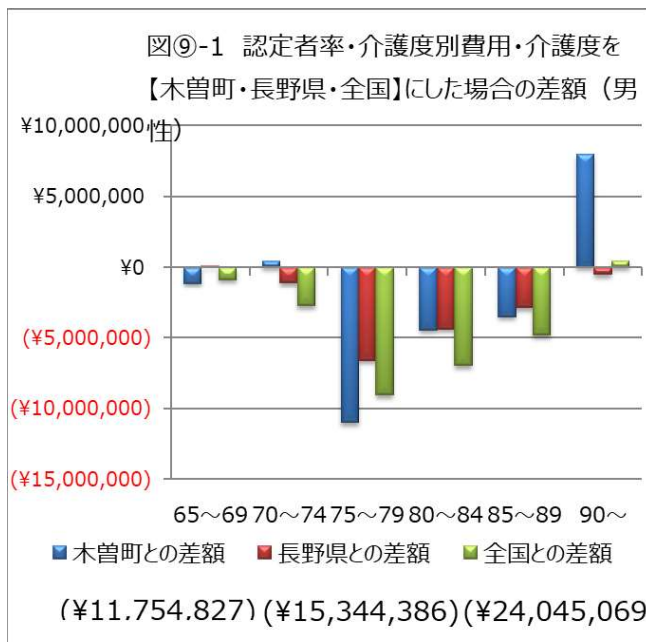
	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～
--	-------	-------	-------	-------	-------	-----

日義村	2.0%	3.0%	3.9%	10.5%	20.6%	58.3%
木曽町	2.3%	2.7%	8.7%	15.4%	27.3%	41.2%
長野県	2.4%	4.2%	8.3%	17.2%	30.3%	66.9%
全国	3.2%	5.7%	11.1%	21.9%	37.5%	69.7%

	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～
--	-------	-------	-------	-------	-------	-----

日義村	0.0%	3.7%	6.4%	18.6%	35.8%	65.6%
木曽町	3.0%	3.5%	8.4%	15.5%	33.2%	73.3%
長野県	1.9%	4.0%	10.0%	24.3%	43.9%	84.8%
全国	2.6%	5.5%	13.9%	31.7%	53.6%	84.8%

## 全国・長野県・木曽町平均との介護費用の差額 全国比較～男性2,405万、女性5,327万浮かしている



\* 介護度別平均費用を全国平均で比較した場合

認定者1人当たりの平均介護度は全国平均より高めだが、認定者率が全国平均よりかなり低いため、総額では大きく浮かしている！

住民1人当たりでは、約4万円浮かせている！







## 2. 「小さな拠点」～分野を横断した「合わせ技」

### 地元に定住と循環の「砦」を創る



広島県三次市の川西地区(1,178人、480世帯)

平成25年「郷の駅づくり推進委員会」による「小さな拠点」構想イメージ



分野横断した「合わせ技」が「小さな拠点」の生命線



2016年7月21日、三次市川西地区に「川西郷の駅 いつわの里」オープン



2014年に8割・326人の住民が出資し、「株式会社 川西郷の駅」を設立

今、明石市が熱い！～関西圏子育て世代流入NO1  
～市役所がスペース借り上げ、多世代で市民パワー結集





# 「子ども食堂」から高齢者の「集いの場」まで多彩な活動

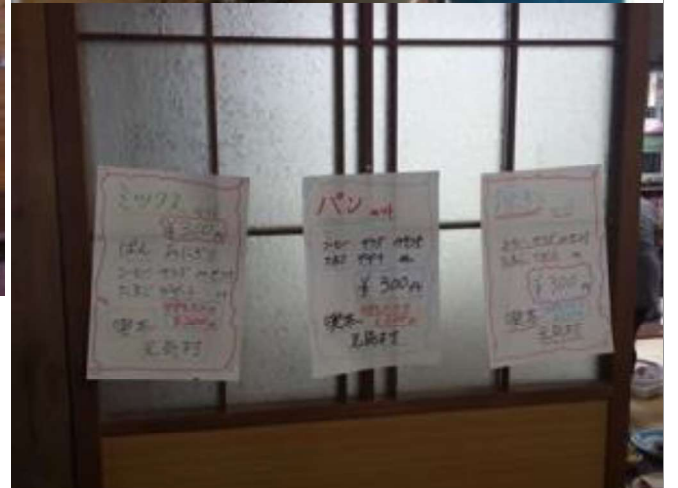


無理をせずに「モーニングの日」から！



高知県土佐清水市斧積地区(人口200人)





月1回「モーニングの日」  
200人の集落に200人が集まる！



# 東近江市「福祉モール」



エネルギー  
～薪

# 食～農家レストラン

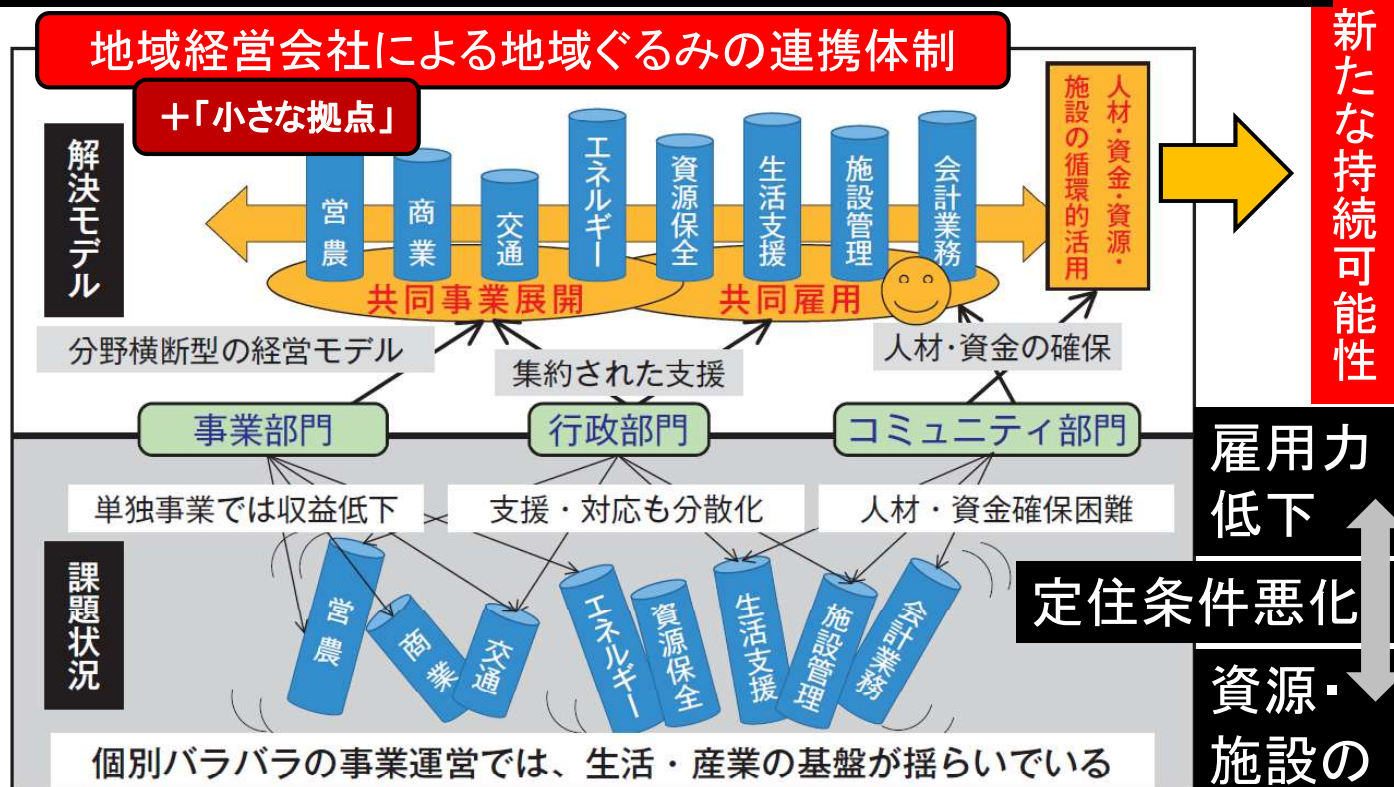


福祉～デイサービス等



食～パン屋さん

## 3. 「地域経営会社」～新たな暮らし・定住を支える仕組み



分野を横断した「合わせ技」が重要



出羽地区  
島根県邑南町

出羽自治会

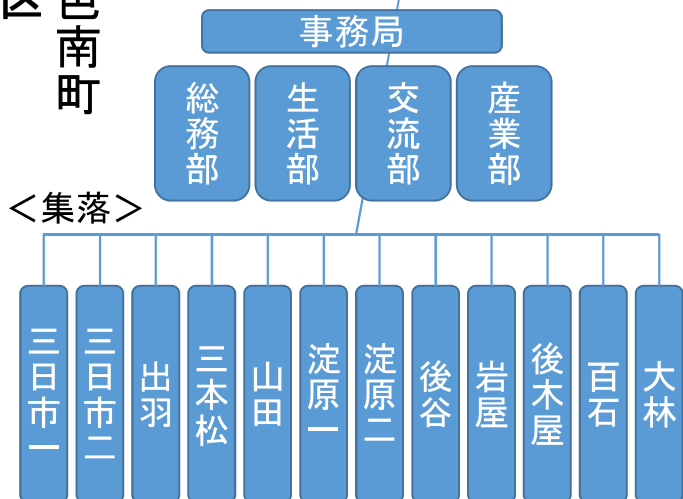
= 出羽公民館エリア

連携



合同会社 出羽

自治会の機能だけでは難しい、収益事業、空き家対策、産業等について、機動的に対応できる実働部隊として2013年に設立。資本金539万円 出資社員17名(設立時6万円、6名)



農業部門  
農地集積32ha  
放棄地活用  
新規就農支援

定住部門  
空き家活用  
(修繕、賃貸)  
起業支援



\*今年、  
2代目  
就任

起業支援  
でパン屋も  
オープン

分散した集落の暮らしを総合的にサポートする「小さな拠点」  
=「かわかみらいふ」(一般社団法人)を設立

奈良県川上村  
同社団HPより

移動スーパー



見守り 声掛け 住民交流

移動スーパー

地元スーパーの「吉野ストア」と連携した移動スーパー・かわかみらいふ号で村内全集落を回り、新鮮食品や果物、仏

コープ宅配



見守り 声掛け 住民交流

コープ宅配

市民生活協同組合「ならコープ」と連携して、ならコープの商品をかわかみらいふ号で配達します。

看護師同行



見守り 声掛け 健康相談

看護師・歯科衛生士同行

かわかみらいふ号に、看護師・歯科衛生士が同行して、健康(健口)づくりや健康相談などの生活サポートを行います。



見守り 声掛け 防災後方支援

かわかみSS

村唯一のガソリンスタンドを継承し、給油や灯油の配達その他、防災・災害支援の後方支援を行います。



見守り 声掛け 住民交流

ふれあいセンター

コミュニティカフェを運営して、地域住民の集いの場として世代間交流も行います。



見守り 声掛け 健康相談

出張診療所・健康教室

ふれあいセンターでは、医師・歯科医師による出張診療を行い、医療機関から遠い住民のサポートを行います。

ガソリンスタンド&配達

コミュニティカフェ

出張診療所



# NPO法人 ほほえみの郷 トイトイ(山口市地福)

## 課題解決のための分野を横断した取り組み例

### 移動販売+見守り 買い物+コミュニティカフェ



- 買い物対策と高齢者見守りにより、生活条件の確保と安心を提供。
- コミュニティの活性化による地域福祉の向上

### 惣菜加工販売+女性の活躍の場づくり 産直野菜の出荷+高齢者の生きがいづくり



- 多世代交流と健康づくりによる介護予防の実施
- ICTを活用した高齢者が安心して暮らせるしくみづくり

- 惣菜加工による食の提供と、女性の地域での活躍の場づくり
- 農業所得の向上と高齢者の生きがいづくり

### コミュニティカフェ+健康づくり+介護予防 生活の困りごと支援+ICT活用

\*「持続可能な地域構造フォーラム資料(2019年10月17日、真庭市)」発表資料より

## 信州ふっころフェスティバル2022 開催要項

### 1 開催趣旨

私たちは、「ともに生きる ともに創る 地域共生・信州」の実現を目指して、長野県地域福祉支援計画に基づく民間福祉関係者のアクションプランとして「信州ふっころプラン」(長野県地域福祉活動計画)を策定し、多分野と協働しながら創造的な福祉実践に取り組んでいます。

この信州ふっころフェスティバルは、信州の自然と風土のなかで、「ごちゃまぜ」の力を原動力に、様々な個性や多様性が地域で輝く共生とふくしの未来を、みんなで感じる集いとして開催します。

- 2 主催 信州ふっころプラン推進会議 (※参画 101 団体 <https://bit.ly/3rhwSGK>)  
 3 後援 長野県、長野県教育委員会  
 4 日時 令和4年11月12日(土) 10:00~15:00  
 5 会場 須坂市文化会館 メセナホール ※オンライン併催  
 6 プログラム

10:00	<b>■オープニングセレモニー 「福祉・介護の魅力発信とイノベーションの促進」</b> ○開会宣言 ○ケアコン 2022<第3回長野県介護技術コンテスト> (最優秀賞) 授賞式 <b>【ゲスト】</b> <b>【総合司会】</b> 長野県知事 阿部 守一 氏 上条 百里奈 氏 10:25 介護福祉士・白梅学園大学嘱託研究員・モデル (長野県出身)	
10:30	<b>■地域共生シンポジウム 「人口減少社会に持続可能な地域づくりを考える」</b> <b>【シンポジスト】</b> 玉木 信博 氏 一般社団法人 ソーシャルファームなかがわ 事務局長 北澤 淳 氏 合同会社 風の谷の大鹿 社員/長野県職員 <b>【コメンテーター】</b> 藤山 浩 氏 一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所 所長 <b>【ゲスト】</b> <b>【司会】</b> 11:50 長野県知事 阿部 守一 氏 上条 百里奈 氏	
12:00	<b>■表彰</b> 12:30 ○長野県社会福祉協議会会長表彰 ○長野県共同募金会感謝 ○ケアコン 2022 (優秀賞) 授賞式	
13:30	<b>■スペシャルライブ</b> 13:45 <b>【ギターリスト】 Showji (長野市在住)</b>	
13:50	<b>■介護の日スペシャルトーク 「介護の魅力を語ろう、伝えよう！」</b> ○ケアコン 2022 授賞作品紹介 ○スペシャルトーク 平岩 なつみ 氏 一般社団法人 福祉 KtoY 代表理事 小林 信彦 氏 IBAFUKU プロジェクトリーダー 15:00 神谷 典成 氏 長野県福祉・介護人材確保ネットワーク会議 委員長 <b>【司会】上条 百里奈 氏</b>	
サブコンテンツ	◆福祉展示・体験コーナー	○福祉 KtoY 「福祉人生すごろく」 ○ふくしのお仕事体験「ふくしニア」
	◆パラスポーツ紹介	会場参加者を対象に誰もが楽しめる「ポッチャ」を紹介し、障がい者スポーツ (パラスポーツ) の理解を深める。
	◆信州ふっころセレクト・ショップ	障がい者就労支援事業所等の創意工夫を凝らした珠玉の製品が集合。会場にて販売及び特設サイトで紹介。

7 公式HP <https://fukkorofes.jp/>

### 8 その他

- (1) プログラム詳細・オンライン配信方法は公式HPで随時ご案内します。  
 (2) 本フェスティバルは「第71回長野県社会福祉大会」「介護の日県民のつどい」「地域共生社会推進長野フォーラム」と併催しています。

### 9 事務局

社会福祉法人長野県社会福祉協議会 〒380-0936 長野市中御所岡田 98-1  
 TEL: 026-228-4244 / FAX: 026-228-0130 / E-mail: kikaku@nsyakyo.or.jp  
 (信州ふっころフェスティバルには皆様の赤い羽根共同募金が使われています)

